

# WHO ファクトシート

## マールブルグウイルス症

Marburg virus disease

2017年10月

### 重要な事実

- ・以前はマールブルグ出血熱として知られていたマールブルグウイルス症(MVD)は、人間には重篤でしばしば致命的となる疾病である。
- ・オオコウモリ科のルーセットコウモリが、マールブルグウイルスの自然宿主と考えられている。マールブルグウイルスはオオコウモリから人に感染し、ヒト-ヒト感染により人間の間で感染が広がる。
- ・マールブルグウイルスは、人に重症ウイルス性出血熱を起こす。
- ・MVDの平均的症例死亡率は約50%である。症例死亡率は過去の流行では、ウイルスの特徴や症例の管理の違いによって、24%から88%の幅がある。
- ・流行を成功裏に制御するためにはコミュニティの関与がカギとなる。流行をうまくコントロールできるかは、ケースマネジメント、感染予防、制御の実践、サーベイランス、接触追跡、優れた研究サービス、安全な埋葬、社会的動員の一連パッケージ化した介入策が適用できるかにかかっている。
- ・経口的水分補給による早期の支持療法、対症療法は生存率を改善する。ウイルスを中和することが証明され認可された治療法はまだないが、血液療法、免疫学的療法、薬物療法の組み合わせが開発中である。

本件ファクトシートについて、厚生労働省検疫所ホームページの[こちら](#)では全文の日本語訳が公開されていますので、ご参照下さい

この文章は、日本 WHO 協会が WHO のメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014 年 3 月に WHO 本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Marburg virus disease

ファクトシート原文は [こちら](#)